様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １３ 日現在

機関番号：３２４０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ００６１１

研究課題名（和文）言語知識とその更新―アイルランド英語の現代的諸相からの理論と検証

研究課題名（英文）Knowledge of language and constant modification: A theory and its verification based on contemporary Hiberno-English

研究代表者
嶋田　珠巳（Shimada, Tamami）

明海大学・外国語学部・教授

研究者番号：８０５６５３８３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：ポストコロニアルでありポストモダンのアイルランド。英国からの独立以降100年のめまぐるしい社会の変化と変容のなかで、言語に関わる意識も変化している。本研究においては、言語使用と言語知識の更新に関して、言語学、社会言語学、さらに社会学の領域におよぶ検討を行った。主要な研究成果として、(i)アイルランド英語の時を表す表現と情報構造の表現についてアイルランド語の関与と文法形成の過程を検討し、言語接触による文法形成論の提案を行ったこと(Shimada 2022), (ii)社会言語学と現代社会論の観点から言語使用とアイデンティティに関する理論的考察を行ったこと(嶋田・三上 2023)があげられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　本研究の成果論文「言語使用とアイデンティティ構成―社会言語学と現代社会論の交差」は社会言語科学会の第23回徳川宗賢賞優秀賞を受賞した。「本論文は，社会言語学の本質に関わる研究課題に対するさまざまなアプローチの間での相互的な接続可能性を本格的に論じた点で，本学会をさらに推進する原動力にもなる論文であ[る]」という授賞評に、本研究成果の学術的意義を見出したい。
　本研究の中心をなす、ことばとアイデンティティや言語接触の諸問題について、ひろく基礎的な理解を共有すること、さらに英語変種の多様性に関する考察により得た知見を言語教育等に活かすことなどに、社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：The project addressed postcolonial and postmodern Ireland in the study of language. Attitudes towards and awareness of language in Ireland have changed in conjunction with remarkable social changes and transformations of the century since independence from the UK. This project examined language use and the updating of linguistic knowledge in terms of linguistics, sociolinguistics, and sociology. The research included two main areas of investigation: (i) an examination of the involvement of the Irish language in expressions of time and information structures in Irish English and the process of grammatical formation, which led to the proposal for a theory of grammatical formation through language contacts (Shimada 2022), and (ii) a theoretical consideration of language use and identity from the perspective of sociolinguistics and contemporary social theory (Shimada and Mikami 2023).

研究分野：言語学

キーワード：言語知識　言語意識　言語接触　言語とアイデンティティ　ポスト近代　社会的意味　アイルランド英語　アイルランド

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本課題の研究代表者は本研究開始前までに既に 15 年以上アイルランド英語(Hiberno-English, Irish English)の文法に関する調査研究を行ってきた。アイルランド英語の研究を通して「〈社会〉を言語理論に組み込むことができるとしたら、それはどのようなかたちか」を考えながら、文法記述、言語接触に関する考察を行っている。

言語変化が起こるときそこには当然のことながら話者の関与がある。研究開始時までに公刊していた文法特徴に関する話者の意識調査の結果と考察の一部をまとめた論文“Speakers' awareness and the use of *do be* vs. *be after* in Hiberno-English” (*World Englishes* 35, Shimada 2016) において、言語意識と言語知識をあわせもつものとして話者を想定し、話者の意識が言語使用に影響を与えることによって言語知識が更新されて言語が変化するという作業仮説を提案した。さらに、話者の言語意識の土壌を作っていると考えられる、コミュニティの環境、国の言語政策、言語をめぐる人々のアイデンティティなどについても、現地でのフィールドワークを通して、アンケート調査・インタビュー調査を踏まえて考察してきた（嶋田珠巳『英語という選択―アイルランドの今』岩波書店, 2016 年など）。言語交替を経験したアイルランドの人々の言語意識、言語とアイデンティティの問題は、アイルランド英語話者の背景ないし言語コミュニティ(speech community)の記述を行うところでも欠かせない。これらは話者の言語意識の土壌を与えているからである。

話者の意識、コミュニティの記述までを含めたアイルランド英語に関する研究全体を意味あるものとして提示するには、言語学、社会言語学、さらには社会学の領域にもおよぶ考察と諸々の検討が必要である。理論社会学分野の研究者を分担者に加え、〈社会 socio-〉を含めた言語研究の基礎を本研究によってつくる。

２．研究の目的

研究の関心は「話者の言語知識はどのように更新されるのか」にある。そしてまた、本研究はアイルランド英語およびこの言語の話者、コミュニティに関する調査によって、このようなテーマを考察するものである。言語意識と言語使用に関する上記の作業仮説をさらなる調査において検証し、「言語知識とその更新」に関する理論をアイルランド英語の事象に照らして精緻化していくことが目的である。話者の言語意識やアイデンティティなど諸概念を基礎づけ、さらにアイルランドの言語コミュニティの環境変化および社会変化を考えに含めた上で論を導き、言語の調査と分析に活かす。

３．研究の方法

下記の(i)～(iv)を行い、その有機的な結びつきのなかで研究全体を遂行した。研究計画当初は、現地調査および話者の会話データ等の収録に基づく研究を予定していたが、世界的な感染症拡大により、研究内容を変更した。

（i）アイルランド英語の動態的研究（嶋田）

アイルランド南西部での現地調査によってアイルランド英語の言語的性質、話者特性、コミュニティ環境を明らかにする。そのための作業と調査を継続する。

※現地調査が行えたのは延長年度においてであり、時の表現に関する文法調査を少し行うにとどまった。

（ii）アイルランド英語の文法形成に関する分析（嶋田）

これまでに記述的考察を行ったアイルランド英語の諸構文（*'tis...*文, *be after* 形式、*do be* 形式）について、その形成過程を言語環境の変遷とともに検討する。

（iii）ポスト近代社会における言語とアイデンティティの理論的考察（三上）

言語とアイデンティティのあり方を考える際に、いわゆる「近代の終焉」とポスト近代という観点は重要である。ポスト近代のアイデンティティに関する現代社会論の観点を言語研究に持ち込む。

（iv）「言語知識とその更新」に関する理論と検証（嶋田）

アイルランド英語の調査データを踏まえ、「言語知識とその更新」に関する理論を構成し、ミクロ、マクロ面から検証を重ねる。その繰り返しのなかでより精密な理論を提案する。

※現地での言語使用データの収録が不可能であったため、当初計画を変更して、理論的考察を先行させた。特に、言語使用における、話者要因としてのアイデンティティの関与に関して、これまでの社会言語学研究の文献調査を行い、言語研究におけるアイデンティティの捉え方などについて論じた。言語形式の社会的意味の生成と定着、言語研究のインタビュー調査やアンケート調査で「アイデンティティ」を扱うときの留意点などについて検討した。

４．研究成果

本研究の中心的な研究成果は(i)～(vi)である。

(i)アイルランド英語の現地調査：話者間で揺れの見られるアイルランド英語の時を表す文法形式について調査を継続した。*have NP V-en* 形式の調査については特に研究発表(World English 学会, 2024 年) にまとめた。

(ii)言語接触と文法形成に関する考察: アイルランド英語の諸構文（*'tis...*文, *be after* 形式、*do be* 形式）について、その形成過程を言語環境の変遷とともに検討することによって、接触による文法形

成(contact-induced grammar formation)のモデルを提案した。さらに情報構造およびテンス・アスペクトの表現形態におけるアイルランド語の関わりについて現段階での考察をまとめた。

(iii)現代のアイルランド英語話者のコミュニティ環境に関する考察：言語的アイデンティティに関して、アイルランド語とアイルランド英語に対する話者の意識およびアイデンティティの複数性などを中心に、これまでの考察をまとめた。

(iv)〈社会〉を含めた言語研究：特に、言語形式の言語外参照的指標性に着目した考察を行った。話者を媒介とした〈言語〉と〈社会〉のインターフェイスに関する考察として、社会言語学と現代社会論の観点から言語とアイデンティティに関する論考をまとめた。

(v) 話者要因を扱う方法論の検討:「アイデンティティ」などの話者要因の関与を談話データにおいて検証する方法論を検討し、社会言語科学会(2024 年 3 月)において、研究発表「言語使用におけるアイデンティティ要因の検証方法-アイルランド英語における社会的意味の交換と話者要因関与調査」を行った。

(vi)国際共同研究への発展:本研究の内容をアイルランド英語に関する次の国際共同研究課題「言語知識と言語変化―アイルランド英語使用データに基づく社会的意味形成の理論と検証」(課題番号:22KK0193)に繋ぐため、特に現代のアイルランドの社会状況、アイルランド英語の談話データに関して、準備段階において必要な検討を行った。

本課題の主要な研究成果公開として、アイルランド英語をモデルケースとした言語接触による文法形成論の提案(Shimada 2022), とくに話者のアイデンティティと言語使用に関する理論的考察(嶋田・三上 2023)、現代アイルランドにおける言語アイデンティティに関する諸問題(嶋田 2023)に関する論文を公刊した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 Shimada, Tamami	４．巻 7
２．論文標題 Contact-induced grammar formation: A model from a study on Hiberno-English	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Frontiers in Communication	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fcomm.2022.832128	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 嶋田 珠巳、三上 剛史	４．巻 25
２．論文標題 言語使用とアイデンティティ構成―社会言語学と現代社会論の交差―	５．発行年 2023年
３．雑誌名 社会言語科学	６．最初と最後の頁 9～24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.19024/jajls.25.2_9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 嶋田珠巳	４．巻 25
２．論文標題 現代アイルランドの言語アイデンティティ	５．発行年 2023年
３．雑誌名 明海大学大学院応用言語学研究	６．最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 Tamami Shimada
２．発表標題 More than a sociolinguistic variant: Meanings of have NP V-en in South-west Irish English
３．学会等名 The 25th Conference of the International Association for World Englishes (IAWE 25)（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 嶋田珠巳
２．発表標題 言語使用におけるアイデンティティ要因の検証方法－アイルランド英語における社会的意味の交換と話者要因関与調査
３．学会等名 第48回社会言語科学会研究大会
４．発表年 2024年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

Tamami Shimada's Website (研究業績) https://www.tamamishimada.com/ja/publications

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	三上　剛史 (Mikami Takeshi) (80157453)	追手門学院大学・社会学部・教授 (34415)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関